

## 再評価結果（平成23年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課

担当課長名：三浦 真紀

<b>事業名</b> 一般国道375号 <small>ひがしひろしま くれ</small> 東広島・呉道路	<b>事業区分</b>	一般国道	<b>事業主体</b> 国土交通省 中国地方整備局
<b>起終点</b> 自： <small>ひろしまけん くれ</small> 広島県 <small>あがちゅうおう ちようめ</small> 呉市 阿賀中央 5丁目 至： <small>ひろしまけん くれ</small> 広島県 <small>ひがしひろしまし たかやちようみぞぐち</small> 東広島市 高屋町溝口	<b>延長</b>	32.8 km	
<b>事業概要</b> 一般国道375号は、 <small>ひろしま くれし</small> 広島県呉市から <small>しまね おおだし</small> 島根県大田市に至る延長約178kmの主要幹線道路である。 <small>ひがしひろしま くれ</small> 東広島・呉道路は、広島県の中央部に位置し、広域交通拠点との連絡強化を図ることを目的とした延長32.8kmの4車線の自動車専用道路である。			
H5年度事業化	H2年度都市計画決定	H5年度用地着手	H7年度工事着手
全体事業費	約1,925億円	事業進捗率 (H21年度末現在)	63%
		供用済延長	11.7 km
計画交通量		15,800~28,200台/日	
費用対効果 分析結果	B/C (3便益) (事業全体) 1.6  (残事業) 5.5	総費用 (残事業)/(事業全体) 566 / 2,140 億円 事業費 : 457/2,000億円 維持管理費 : 109/141億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 3,086 / 3,478億円 走行時間短縮便益 : 2,598/2,876億円 走行費用減少便益 : 315/ 393億円 交通事故減少便益 : 172/ 210億円
基準年 平成22年			
<b>感度分析の結果</b> 残事業について感度分析を実施 交通量変動 : B/C= 6.7 (交通量+10%) B/C= 4.2 (交通量-10%) 事業費変動 : B/C= 5.1 (事業費+10%) B/C= 5.9 (事業費-10%) 事業期間変動 : B/C= 5.3 (事業期間+20%) B/C= 5.7 (事業期間-20%)			
<b>事業の効果等</b> ①円滑なモビリティの確保 ・損失時間の削減が見込まれる ・現道等の混雑時旅行速度の改善が期待される。 ・並行区間国道375号の混雑緩和によるバスの利便性向上が期待される。 ・呉市から新幹線駅（東広島駅）へのアクセス向上が期待される。 ・呉駅から広島空港へのアクセス向上が期待される。 ②物流効率化の支援 ・東広島市から呉港（重点港湾）までの所要時間の短縮が見込まれる。 ③都市の再生 ・古新開土地地区画整理事業に近接して阿賀IC（仮称）が設置されており街づくりを支援 ④国土・地域ネットワークの構築 ・呉市と東広島市を最短で連絡 ・黒瀬地区から日常活動圏の中心都市へのアクセス向上が期待される。【東広島市黒瀬～呉市役所】 ⑤個性ある地域の形成 ・拠点開発プロジェクト広島中央テクノポリスの開発支援 ・山陽道のICから呉市の主要観光地（大和ミュージアム）へのアクセス向上が期待される。 ⑥安全で安心できるくらしの確保 ・東広島市から高次医療機関（国立呉医療センター）までの所要時間が短縮。 ⑦安全な生活環境の確保 ・御条交差点や東子交差点、広島中央サイエンスパーク入口交差点において、交通量の減少により安全性の向上が期待できる。 ⑧災害への備え ・第一次緊急輸送道路である一般国道375号の代替路線として機能する ⑨地球環境の保全 ・CO2排出量の削減が見込まれる ⑩生活環境の改善・保全 ・NOx排出量の削減が見込まれる ・SPM排出量の削減が見込まれる			

関係する地方公共団体等の意見

東広島・呉道路は、地域交流の促進、交通混雑の緩和等に重要な役割を果たすことが期待されており、呉市、東広島市、竹原市、江田島市、熊野町の首長で構成される「東広島呉自動車道建設促進期成同盟会」により、一層の建設促進について要望（平成22年8月）を受けている。

広島県知事の意見

東広島・呉道路について、対応方針（原案）案については異存ありません。  
東広島・呉道路は、広島県中央地域の地域経済・産業等の発展や広域的な交流圏の形成、さらに広島空港へのアクセス性を向上させるうえで必要不可欠な道路ネットワークとして、整備を着実に進める必要があると考えます。  
今後も引き続きコストの縮減に努めながら、早期の全線供用開始に向け、計画的に整備を進めていただきたい。

事業評価監視委員会の意見

事業者から事業の概要、評価結果及び対応方針（原案）について説明を受け、事業が適切に実施されているか審議を行い、審議の結果、再評価対象の事業は適切に実施されており、事業継続とすることとした事業者の判断は、妥当であると意見集約した。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

国道375号の慢性的な交通混雑により、広域交通拠点（広島空港、呉港、新幹線東広島駅、山陽自動車道西条ICや高屋IC）へのアクセスを阻害している。

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成21年度末時点で、用地買収は約97%、工事進捗が約54%（全体63%）が完了している。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

平成19年11月に馬木IC～上三永IC間7.3km、平成22年3月に上三永IC～高屋JCT・IC間4.4kmを供用済。早期全線暫定2車線供用を目指し、事業を進めているところである。

施設の構造や工法の変更等

・新技術の活用（PCコンポ橋の導入）等によりコスト縮減を図っている。【約2.0億円の減少】。

対応方針 事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。